

鹿児島県肝付町

観光基本計画 概要版

第1版

令和6年3月





流鏝馬 (やぶさめ)

およそ 900 年に渡って受け継がれている伝統行事「流鏝馬」。平安時代に伝わった肝付町の流鏝馬は、一般的な武芸の流鏝馬ではなく、都において武官が執り行っていた年占いの神事です。射手は夏ごろに地元の中学校 2 年生から選ばれ、大観衆が見守る中、14 歳の少年が馬と一体となって馬場をかけ矢を放ちます。

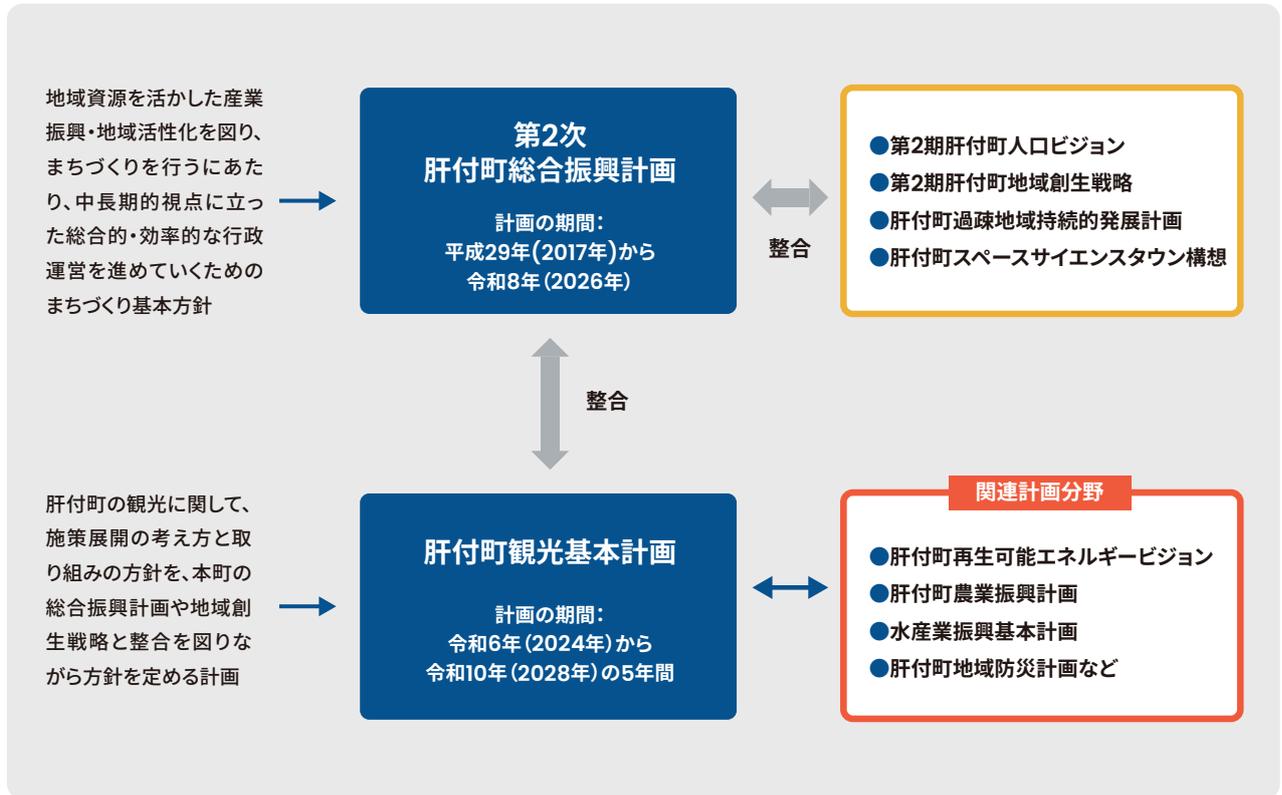


JAXA内之浦宇宙空間観測所

昭和 38 年 (1963 年) の開所以来、400 機以上のロケットが打上げられてきた JAXA 内之浦宇宙空間観測所。日本初の人口衛星「おおすみ」の打上げに成功したのも、小惑星のサンプルを持ち帰った世界初の探査機「はやぶさ」が打上げられたのも肝付町。

計画の位置付け

「第2次肝付町総合振興計画」は各分野における施策の基本方針や目標、それを実現するための方向性を定めたもので、本町の上位計画に位置付けられています。観光分野においては関連する農業振興計画や水産業振興基本計画など、様々な計画と施策の関連性・整合性を図りながら、本町の観光振興まちづくり目標実現に向けて「観光基本計画」を策定しました。また、観光基本計画は施策展開の考え方と重視する数値目標を設け、それらを達成するための基本方針を定めました。



計画の期間

本計画の期間は、令和6年度（2024年度）から、令和10年度（2028年度）までの5年間とします。



計画の全体概要

現状分析

●各種調査

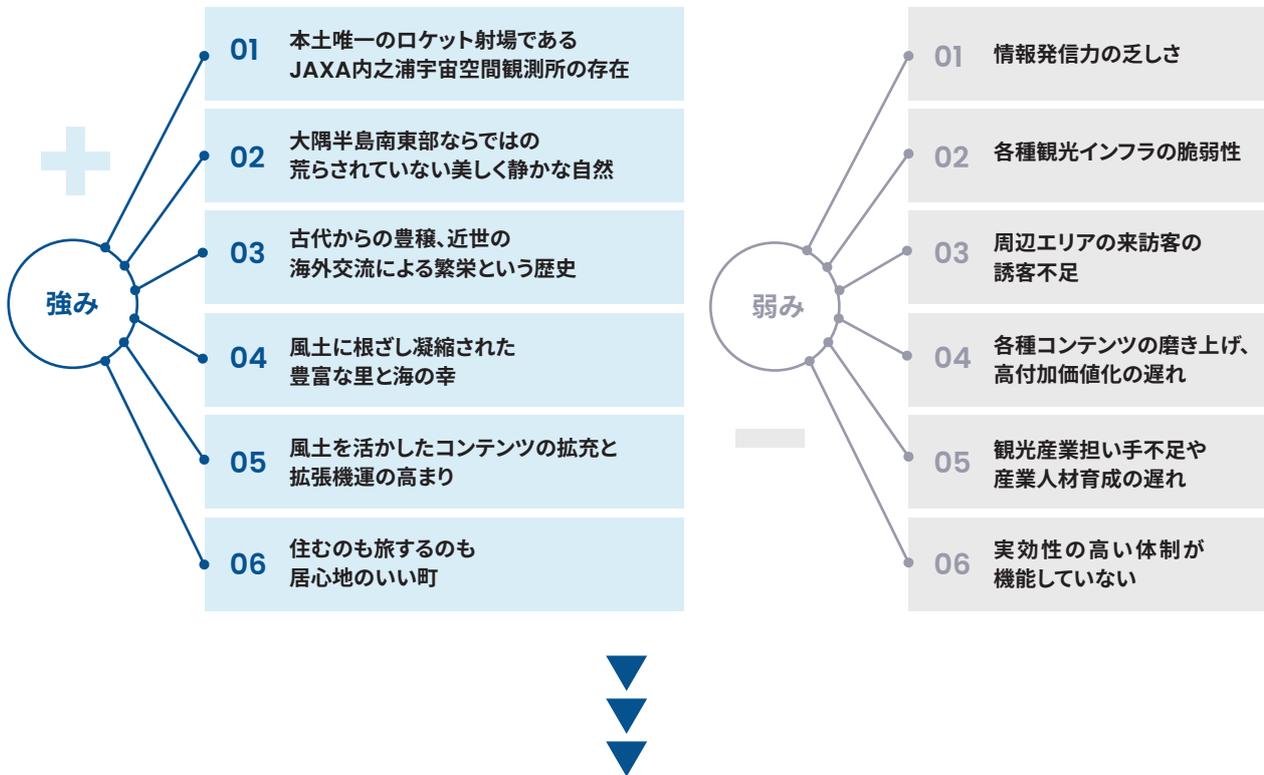
- 国内観光の市場動向
- インバウンドの市場動向
- 九州地方の観光市場動向
- 鹿児島県の観光市場動向
- 肝付町の観光実態

※オープンデータ/肝付町保有観光統計データ

- 観光実態把握調査
- 観光客向けアンケート調査
- 町民向けアンケート調査
- 移住者交流会でのアンケート調査

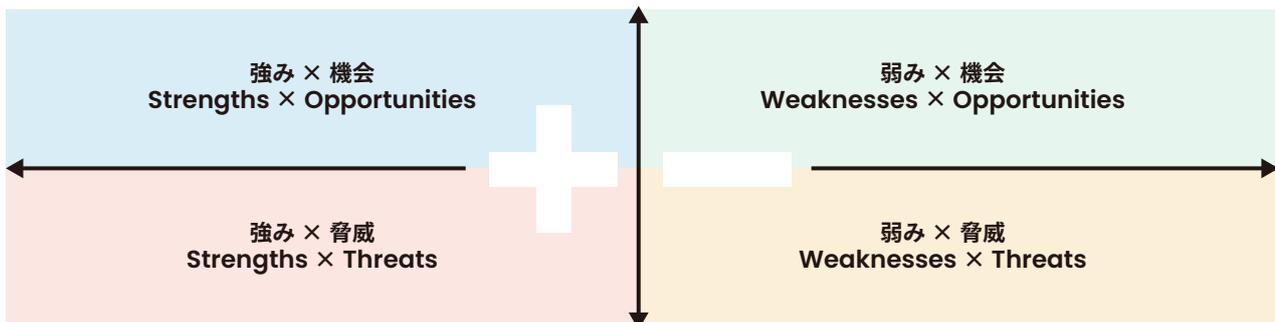
※自主調査

●環境分析



課題抽出

●SWOT分析による課題抽出



将来ビジョン

●5年後に目指すべき姿(ビジョン)

まちに賑わいを創出し、地域活力を高め、
肝付町ならではの地域力あふれるまちを目指し
成長することができる地域となる。



基本方針

基本方針 1

“宇宙”・“宙(そら)のまち”という独自性とユニーク性を活かす

基本方針 2

自然資源や魅力的な食文化、歴史資産を有効な資源と捉える

基本方針 3

域内外の事業者連携や大隅半島エリアの広域連携などを推進する

基本事業

- 観光の入り口である情報発信体制の整備と強化
- 肝付町の歴史と文化を活かした官民連携の魅力づくり
- 「宙(そら)」の観光コンテンツ化推進
- 一次産業のブランド化推進
- 秘境的自然の体験コンテンツ化
- 地域の受け皿の整備と強化
- 観光発信拠点の整備支援
- 観光人材の育成マッチングと集積
- 観光インフラの整備
- 広域連携による観光促進

計画の推進体制

肝付町民、事業者と連携・協働して、
観光振興が全ての関係者にとって望ましい形で成長するように推進します。

観光振興が肝付町民の生活や事業を阻害することなく、
町民・事業者と連携・協働することで生活や経済を活性化させ、
「オールきもつき」としてすべての関係者が一体となり、
一層豊かな肝付町を実現するよう推進します。

本計画の数値目標(*KPI)

	令和8年度	令和10年度
	▼後期計画策定時に下方修正された目標値	▼前期計画策定時に設定された目標値
① 中心市街地商店街通り会の設立	1 箇所	1 箇所
② 入込観光客数	400,000人	410,000人
③ 合宿受入数(町内)	5,000人	5,500人
④ ツーリズム受入家庭数	25件	50件

*KPIとはKey Performance Indicator (重要業績評価指標)のこと。プロセスが適切に進んでいるか目標達成の度合いを測るための指標

基本計画方針(ミッション)

肝付町が5年後に観光地域としてあるべき姿を目指す上で掲げる「数値目標(KPI)」を実現する3つの方針を「観光基本計画方針」として下記にまとめます。

基本方針 1 | “宇宙”・“宙(そら)のまち”という独自性とユニーク性を活かす

数ある肝付町の観光資源の中でも、国内外の認知度も高い、宇宙関連産業の長い歴史や内之浦宇宙空間観測所の存在、町民にとっても最も身近な誇れる産業として宇宙関連産業を活かした新たな体験観光や製品の創出、地域認知度を上げるプロモーションとしてコンテンツを活用することが肝付町の観光振興にとって有効的かつ、本質的な施策となります。

基本方針 2 | 自然資源や魅力的な食文化、歴史資産を有効な資源と捉える

肝付町は自然資源の宝庫であり、各調査における結果でも、それらは観光客からの満足度の高いものとなっています。豊かな自然があることによる農林畜水産業など豊かな食文化の醸成にもつながっており、魅力的な産品にさらに高付加価値をつけ提供するとともに、歴史資源や自然豊かな土地ならではの新たな観光産業策など、新しい価値づくりの挑戦を活性化します。

基本方針 3 | 域内外の事業者連携や大隅半島エリアの広域連携などを推進する

今後さらに域内の産業を活性化させるためには、人手不足の解消や事業効率化を図る必要があります。域内外の事業者との連携や協力関係を強固にし、観光促進に向けたマンパワーの集積や相互協力による人材育成などを行いつつ、大隅半島エリアの各市町村とも行政間連携を図り、時代にあった観光振興を実現します。これらのことを実現しながら、おもてなし精神と優しい人柄の町民性による観光客との触れ合いや楽しみを創造します。

基本事業

● 基本方針 1 | “宇宙”・“宙(そら)のまち”という独自性とユニーク性を活かす



<「宙(そら)」の観光コンテンツ化推進>

本土唯一のロケット射場である内之浦宇宙空間観測所を有し、「日本一宇宙に近いまち」と呼ばれる肝付町。「射場のあるまち」としての優位性を観光資源として活用するとともに、宇宙・星空から派生させた「そら」に関連するコンテンツを広く展開し、「『宙(そら)』の聖地」という独自性を見出します。



<観光発信拠点の整備支援>

肝付町内には観光協会や宙の家などの観光発信拠点が点在していますが、観光客が立ち寄るスポットとしては、町の入り口から遠いといった課題もあります。こうした拠点を観光客が立ち寄りやすくし、観光情報をスムーズに取得できるようにデザインします。



<観光人材の育成マッチングと集積>

地域が有する可能性を最大限に活かしながら新たな価値を創り出す持続可能な観光地域づくりにあたり、観光地としての高付加価値化を推進し、今後の地域の観光産業をリードする「観光人材」の育成と町とのマッチング機会の創出を図る取り組みを行います。

● 基本方針 2 | 自然資源や魅力的な食文化、歴史資産を有効な資源と捉える



<肝付町の歴史と文化を活かした官民連携の魅力づくり>

「川上中学校本校舎」や「塚崎古墳群」等、肝付町に今なお残る歴史的価値の高い文化財を活用するとともに、地域への愛着と情熱でそれらを大切に守ってきた地域住民のみなさまと「オールきもつき」として連携しながら、まずは「肝付町の歴史と文化」を足がかりに、観光地としての魅力向上に取り組みます。



<一次産業のブランド化推進>

かごしま黒豚、辺塚だいたいカンパチ、バッションフルーツ等、町内には優れた農畜産物や海産物が数多く存在します。地域の温暖な気候や豊かな自然の恵みによって培われた食材を全国にお届けするため、肝付町の食材や加工品等のブランド化を推進します。



<秘境的自然の体験コンテンツ化>

肝付町には辺塚海岸をはじめとする海に関連したスポットや清純の滝をはじめとする山/森に関連した、豊かな自然が点在しています。手つかずの豊かな自然を「秘境的自然」として活用し、「肝付町ならではの」観光コンテンツとして昇華させる取り組みを行います。

● 基本方針 3 | 域内外の事業者連携や大隅半島エリアの広域連携などを推進する



<観光の入り口である情報発信体制の整備と強化>

肝付町が持つ観光資源・地域特産品・地場産業の歴史や文化はもちろん、地域で生き生きと暮らす住民の“人そのものの魅力”にも着目し、対外的に発信します。一人でも多くの人が肝付町を「知らない」から「知っている」に変わり、肝付町に対する興味・関心を高め、旅行先として検討できる状態を目指します。



<地域の受け皿の整備と強化>

肝付町の観光促進と経済波及効果の向上を目指し、観光客が立ち寄る「飲食・小売施設」「宿泊施設」「温泉施設」等の魅力向上を図ります。施設自体の魅力向上を通じて観光客の満足度を高め、リピーターを増やすことを目指します。



<広域連携による観光促進>

肝付町観光を目標として訪れる人だけでなく、周辺地域を観光の主目的として訪れる人にも肝付町に立ち寄ってもらうため、大隅半島全体を含む各関係団体と連携を取りながら事業を推進いたします。

3つの基本方針に沿って肝付町の観光振興に必要な基本事業を整理し、具体的な施策の展開を通して、観光産業から肝付町全体の活性化を推進します。また、観光基本計画は必要に応じて随時目標の見直しを行うなど、柔軟な対応を行います。



やぶさめと、ロケットの町

